

授業科目名	地域研究入門	単位数	2単位
担当教員名	岩井雪乃	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 アフリカゾウによる獣害問題（農作物被害・人身被害）を切り口として、途上国の農村に暮らす方々が抱える課題を、便利に暮らす日本からの視点ではなく、地域住民の視点から理解する。			
【到達目標】 (1) 複雑なアフリカの現状を地域住民の視点から理解し、メディアや報道では見過ごされがちな問題を想像できるようにする。 (2) アフリカの環境問題・社会問題を、多角的・批判的・構造的に分析できるようになる。 (3) アフリカで生じている出来事を、グローバルな潮流に位置づけて理解し、さらには日本と関連づけて考えられるようになる。			
授業の概要			
アフリカゾウは、重要な観光資源であり「人類の貴重な財産」として保護すべきだと考えられていますが、その一方で、ゾウが生息する地元では、農作物を荒らし人命を奪う「害獣」となっています。授業では、タンザニアのセレンゲティ国立公園を事例に取り上げ、ゾウ獣害問題が発生している原因とその対策を学びます。さらには、日本のクマ問題と比較しながら、アフリカの問題を自分ごととして想像する力を養います。			
授業計画			
第1回：現代世界におけるアフリカ、アフリカにおけるタンザニア 第2回：タンザニアの動物保護区と観光 第3回：タンザニアの農村生活 第4回：生活を脅かすアフリカゾウ獣害問題 第5回：ゾウとの共生をめざす住民の取り組み 第6回：アフリカゾウ密猟と住民を苦しめる取り締まり 第7回：「自然保護」によって土地を奪われる世界の先住民 第8回：タンザニア政府による不十分なゾウ獣害対策 第9回：世界で起こっている「自然保護という名の土地収奪」 第10回：「アフリカゾウと生きるプロジェクト」における試行錯誤 第11回：アフリカ農民の力強い主体性と生活実践 第12回：地域に寄り添う国際協力とは 第13回：アフリカゾウ獣害問題と日本の獣害問題の共通点 第14回：日本におけるクマ人身被害の原因と対策 第15回：野生動物との共生に向けて、自分にできることを考える 定期試験			
スクーリングでの学修			
テキスト			
テキスト①図書 岩井雪乃（2017）『ぼくの村がゾウに襲われるわけ。-野生動物と共存するってどんなこと?』合同出版 978-4772613163			
テキスト②論文 山中正実（2020）「知床のヒグマと人の関わりの現状と課題について」 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jahes/36/1/36_87/_pdf			
参考書・参考資料等			
参考資料①動画 岩井のゾウ対策プロジェクト番組「世界ナゼそこに？日本人」（テレビ東京 2020年）25分 https://wcms.waseda.jp/em/5fb913c931f8			
参考資料②動画「ツキノワグマの出没増加の背景と対策」（森林総合研究所 2021年）26分 https://www.youtube.com/watch?v=kV7jn8f-bnc			
参考資料③WEBサイト「知床半島に生息するヒグマの数とマネジメントの今後」（知床財団 2023年） https://www.shiretoko.or.jp/express/7351.html			
学生に対する評価			
レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）			